テュービンゲン大学前学長エングラー教授来訪記念講演会・ワークショップを開催

ドイツ・テュービンゲン大学前学長であるベルント・エングラー教授の本学来訪を記念して、５月30日（火）に講演会を良心館 RY103教室で、６月１日（木）には２つのワークショップを良心館 RY401教室と RY410教室でそれぞれ開催した。

本学にとって初めての海外キャンパスとなるＥＵキャンパスをテュービンゲン大学構内に開設するにあたり、エングラー教授には多方面での並々ならぬご尽力をいただいた。本来であればテュービンゲン大学長時代に本学を来訪される予定であったが、残念ながらコロナ禍により延期を余儀なくされた。

今回のご来訪に伴う講演会・ワークショップは、同志社大学創立150周年記念事業「『国際主義』の深化に向けた『人を植ゆる』の事業」のひとつとして開催し、事業の核心である教育・研究交流を通じた信頼関係のさらなる強化を導き、相互に「特別な友人」であり続けるための絆を確認する機会とした。

講演会は「“Make America Great Again”：The Logic of Renewal and Progress in American Political Rhetoric」をテーマに、アメリカの歴代大統領の就任演説がどのような伝統に基づき、前任者と異なる進歩的思考を如何に表現しているかについてご講演いただいた。

講演会で語りかけるエングラー教授

講演会は英語で行われ、聴講者の理解を深めるために同時通訳を導入した。約170名の学生と教職員の参加があり、講演終了後も活発な質疑応答が行われ、盛会のうちに締めくくられた。特に学生たちから質問が多数寄せられ、時間を超過するほどであった。講演が学生たちの知的好奇心を刺激する興味深い内容であったことの証左であり、学生たちの意欲溢れる姿勢に対し、エングラー教授も感銘を受けておられたことを付記したい。

第１部のワークショップは「Westward Expansion – Strategies of Justifying the Conquest of the American West」と題して英語で行われた。アメリカの西部領土拡大を正当化するための戦略を明らかにするため、参加者とともにアメリカ西部の土地獲得と先住民の追放や抹殺を誘導した重要な歴史的文書や絵画を読み解き、アメリカの土地政策や先住民政策における異なる学問領域からの視点やアプローチを共有し理解を深めた。

アメリカ西方拡大の歴史と
正当化のワークショップ

第２部は「Poetics in the Poem – Modernist American Poems on the Art of Poetry」と題して英語で行われ、20世紀初頭の詩を使用して、現代詩の概念やその基本的な詩学についてお話いただいた。とりわけアメリカのモダニズム期の詩は、俳句の芸術と一定の親和性があるため、参加者は俳句の概念とアメリカの詩学を比較しながら新たな視点を得ることができた。どちらのワークショップにも30名を超える学生・院生・教職員、および本学滞在中の海外大学の客員教授らの参加があり、熱心な討論が行われた。

アメリカ現代詩についてのワークショップ

今般の講演会、ワークショップの開催にあたってご協力をいただいたテュービンゲン大学日本研究センター(TCJS)・ミヒャエル・ヴァフトゥカ所長、文学部・新茂之教授、文学部・圓月勝博教授にこの場を借りて感謝を申しあげる。

末筆ながら、本学学生・教職員に真摯に語りかけ、教育・研究を行う意義と歓びを伝えてくださったエングラー教授に対し、改めて深い謝意を表したい。

（ＥＵキャンパス支援室）

神学部・神学研究科講演会

「日産自動車 CEO 講演――日産の長期ビジョンと次世代の人財育成」

６月13日（火）14:30～15:30、良心館 RY305教室において、内田誠氏（日産自動車株式会社取締役、代表執行役社長兼最高経営責任者）による標記講演会が開催された。小原克博・神学部教授がコーディネーターを務めた。

内田氏は自己紹介の中で、32年ぶりの同志社大学訪問であること、エジプト（小学１年～５年）やマレーシア（中学２年～高校２年）での経験が異文化への適応力を養い、今の自分自身を形成していることを述べられた。また、海外生活の中で宗教への関心を持ち、同志社国際高校卒業後、神学部に入学された。卒業後は日商岩井（現・双日）に入社し、フィリピンでの駐在などを経て、38歳の時に日産に転職された。